

かがやく

ハーモニーひたちなか

令和3年度 男女共同参画キャッチフレーズ
最優秀賞作品(清水 祐希 佐野小5年)

みとめあう あなたの力と わたしの力



「かがやく」の
バックナンバー

12月10日(金)、ひたちなか市子育て支援・多世代交流施設「ふあみりこらぼ」にて、茨城県人権教育講師 河野陽介さんをお招きし、男女共同参画講座「性的マイノリティについて考える～市井の当事者が言えないホントのトコロ～」が開催されました。LGBTの現状を聞くだけでなく、性の多様性や多様な生き方について多くの気づきがある講座でした。

【詳細は、4面へ】

歳の差20歳のかっこいい夫婦の生き方 ～ハーモニーひたちなかフォーラム 講演会を聞いて～

11/27(土)、ワークプラザ勝田でハーモニーひたちなかフォーラムが開催されました。今年は、「～たいせつな命を自分で輝かせよう～すこやかに今を生きるヒント」をテーマに、自分らしく生きる方法を聞いてきました。

今回の講師「古谷 信義」さんは、ひたちなか市在住で、かがやく31号「ヒモトレ講座」でご紹介した古谷久生子さんのパートナーです。ご夫婦の登壇は、まさに、パートナーといった言葉がぴったりでした。

自立したパートナーシップが、とにかくカッコイイ！その根底にあるのは、信義さんがおっしゃった「歳の差が20もあるので、私が死んだあとでも妻が困らないような夫婦になりたかった。妻に自立を期待するなら、先ず自分が寄りかからないように自立しなきゃと思って」という思い。前向きな信義さんの思いを聞いた会場中の女性の目が、輝きました。



信義さんは、「心身脳も健康に生きるためには、記憶力や判断力を総合的に使う家事が、男女共にとても役立つ」と話し、続けて「だから買い物でも男性にはカート押しだけでなく、何を選ぶかなどの選択権も預けてみてね。男は妻に甘えちゃうから、甘やかしはNG!」と、男性も認知症防止には積極的に家事をすることがお勧めだそうです。久生子さんのひもトレも間に入って、1時間があったという間の楽しくて情報盛りだくさんの素敵な講座でした。

男女共同参画キャッチフレーズの受賞者が表彰

11/27(土)、ワークプラザ勝田で男女共同参画作品の受賞式が行われました。応募作品335品の中から、6作品が選ばれ、ひたちなか市長から表彰されました。



最優秀賞

みとめあう あなたの力とわたしの力
(清水 祐希 佐野小学校5年)

優秀賞

性別に「らしさ」じゃなくて自分「らしさ」
(増田 ひなた 勝田第三中学校1年)

1人1人が社会の主役 みんなが輝く未来
(黒澤 優 勝田第三中学校3年)

佳作

つないでく 協力し合って未来へと
(藤田 絆那 勝倉小学校5年)

次世代へ みんなが主役 ダイバーシティ
(永井 楓馬 勝田第三中学校2年)

お互いに 支え助け合う これからの未来
(鴨志田 歩生 那珂湊高等学校3年)



男女共同参画事業所として2社が表彰

男女共同参画作品の受賞式と同時に、男女共同参画事業所表彰も行われました。
今年度は下記の2社が選ばれ、ひたちなか市長から表彰されました。

株式会社 三富子ケース [製造業]

従業員数：9人（うち女性7人）

事業内容：宝飾品や刃物、高級文具などを収める箱やケースを製造しています。働きやすい勤務時間の設定や休暇が取りやすい体制整備など、女性が安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。



大人の女子校 株式会社 [経営コンサル]

従業員数：30人（うち女性30人）

事業内容：20～50代の女性の「自分らしい働き方」を支援するオンラインビジネススクールの運営。主に「起業支援」と「ライフマネジメント」を柱とした多様なコンテンツでライフキャリアをサポートしています。



表彰される会社はどんな会社？

- 女性の活躍を推進する取り組みをしている
- 仕事と育児・介護の両立を支援している
- 男女の多様な働き方を可能にし、仕事と家庭を両立する環境を作っている



男女共同参画コラム



男性目線のジェンダー平等 ～性別でなく、個性を大切に～

「ジェンダー平等」という言葉が浸透し、「女性差別防止」への理解が深まりましたが、男性が差別だと思いが取り上げられていないことに気がつきました。そこで、「ハーモニーひたちなか」の唯一の男性会員である「ひたちなか青年会議所」の川崎さんに「男性差別」についてインタビューをしました。ジェンダー平等が日本の経済発展につながるなど、男性ならではの目線で熱く語っていただきました。

Q1 最近では「男性差別」という言葉も出ていますが、川崎さん自身で感じることはありますか。

A 例えば、「男性は育児休暇をとるように」と言われているけど、実際にとろうとすると、取得してはいけなような雰囲気になることがあります。どこかの国では、法律で育児休暇を取らないといけなと聞いたことがあります。日本でも「男性の育児休暇」の法律を作ってもいいのでは？

Q2 川崎さん自身が取り組む「ジェンダー平等」はありますか。

A 青年会議所の会議は、これまで夜間で対面方式でかつ参加必須でしたが、育児と両立する会員に考慮し、時間と場所に縛られないオンライン会議や自由参加を導入しました。

Q3 ジェンダー平等を実現させるためにはどうしたら？

A 性別ではなく、「個性」を見るべきだと思う。「男女平等なんだから」「男も家事をやれ!」ではなく、相手の得意なところを尊重することが、実現につながると思います。

個人的には、ジェンダー平等＝経済発展と考えています。女性活躍と言葉を発するだけでなく、女性が魅力を感じる仕事を作ることも重要なと思っています。いずれにしても、この問題は一個人や一企業でなく、行政も関わってみんなで解決する必要があるのではないのでしょうか。



青年会議所川崎さんへインタビュー

男女共同参画講座「性的マイノリティについて考える」を聞いて



講師の河野さんは声楽家で、ボイストレーニングの指導などを行っています。その一方で、同性愛者を公言し、「にじいろ神栖」をはじめとした複数の性的マイノリティの団体を運営しています。そんなユニークな経歴を持つ河野さんは、「見かけで判断すると、思い違いや思い込み、偏見に繋がりがやすい。多様な性の在り方を認め合うことが、性的マイノリティの生きやすさを実現する。相談ができる環境は大切で、相談窓口での対応事例の積み重ねが具体的な施策につながる。そのためは、自治体・法律家・当事者・当事者団体・周辺の人々の連携が必要。」と話していました。

参加者からの感想

- 1人で悩んでいる人がたくさんいることが分かりました。
- なかなか理解できないこともあると感じましたが、いろんな人がいることを伝えていきたい。子育てにも生かしたい。
- 偏見を持たず、みんなが生きやすい世の中を作れたらいいと思う。
- 自分がまず広い理解と想像力をもって生活したい。
- いろいろな世代の方が、性的マイノリティについて考えたら住みやすい社会になると思いました。誰もが持っているマイノリティ性を考え、認めていく社会が必要と思う。



ハーブスプレー&リースづくりを開催



11月12日(木)、ふぁみりこらぼにて、消費生活+男女共同参画合同講座「ハーブスプレー&リースづくり」が開催され、30名が参加しました。

参加者は、講師の鹿志村さんの話に耳を傾け、ハーブスプレーと個性あふれるリースが完成しました。参加者から、「講師の先生が丁寧に教えてくれたのでうまくできた」など、講座は大盛況で、あっという間に90分という時間が過ぎました。

消費生活+ハーモニー展を開催



10月30日(土)から11月14日(日)に、消費生活+ハーモニー展が、ふぁみりこらぼで開催されました。

男女共同参画社会づくりに取り組む団体が作成した紹介パネルをはじめ、市民の皆様からお寄せいただいた写真を展示しました。

同時に、男女共同参画センターの事業紹介、男女共同参画意識度チェックやLGBTについてのパネルを展示し、会場に足を運んだ方へ啓発を行うことができました。

編集後記

スイッチを押せば明かりが灯り、蛇口をひねれば水が出てくる。ゴミ袋を出しておけば、いつの間にか収集車で回収してくれ、マーケットに行けば、所狭しと商品が並べられている。日々の暮らしは、顔の見えない誰かに支えられている。かつては3日分を目安と言われていたが、一週間分を目安に防災備蓄を見直してはどうでしょうか。「お互い様」と、私も誰かを支えられるかな...

(K.M)

ひたちなか市女性のための相談窓口

電話番号 029-274-3002 (相談専用)

受付日 月曜日から金曜日
(祝日・年末年始除く)

相談時間 9:30~12:00 / 13:00~16:30